

創造設計演習Ⅱ

(必修3単位) 2年前期

久次米利彦、飯田尚紀、富永哲貴、松井浩子*

授業テーマ・内容

本演習は、ものづくり・デザインへのコンピュータ活用を中心テーマとしている。制作対象については、ある程度の自由度を持たせ、学生のアイデア・創造力を引き出すことを全体の目標としている。

ものづくり系のテーマとしては、3Dプリンタを用いた造形物の出力を行い、最新の技術に触れる。

創造設計(デザイン)系のテーマでは、画像補正からペインティングまで幅広く使えるペイント系描画・編集ソフトウェアの基礎を学ぶ。このソフトウェアは、創造設計演習Ⅰで実習を行ったドロー系描画ソフトウェアを併用したりしながら、動画を作成したり、CGでの素材を作成する時に欠かせないアプリケーションである。

他の専門科目との関連:

どのテーマも、「卒業研修」、2年後期科目「システムデザイン実習」に繋がる。

デザイン系のテーマは、2年前期科目「デザイン学基礎」、2年後期科目「ビジュアルデザイン」に繋がる。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

本演習では、3次元CADを用いた3次元モデリングの体験、モデリングしたモデルの成形の体験、ペイント系描画・編集ソフトウェアの基本的な操作が個人で行えるようになること、受講者全員で一つの映像作品を作り上げる体験、を目標としている。

他者と協調・協働して計画的に課題の探求や解決ができるようになるために必須の科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	—%
中間試験	—%
小テスト	—%
レポート	45%
演習課題	—%
平常点	55%

レポートの内容及び平常点によって評価する。

但し、1テーマでも欠席又はレポート未提出の場合は不合格となることがあるので注意すること。

テキスト

情報倫理ハンドブック noa 出版
未定(CGデザイン実習)
プリント

参考書

工学基礎実習および創造設計演習Ⅰの教科書
CG基礎の教科書を持参すること(非保持者には別途プリント配布予定)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テーマ毎・週単位でレポートが課される。不備がある場合は注意・指導を行った上、再提出が課される場合もある。

履修条件

備考

デザイン業務を行う教員がCGデザイン実習を担当する。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	ガイダンス・情報倫理	本演習の全体像の説明・諸注意 情報倫理に関する知識の確認	予)演習Ⅰを振り返る(1時間) 復)理解度セルフチェック(1時間)
第2週	CGデザイン実習(1)	画像編集ソフトウェアによる基本操作	予)CG基礎教科書の該当頁を読む(1時間) 復)基本操作の復習(2時間)
第3週	CGデザイン実習(1)	画像編集ソフトウェアによる作品制作	予)CG基礎教科書の該当頁を読む(1時間) 復)作品を完成させておく(2時間)
第4週	CGデザイン実習(1)	画像編集ソフトウェアによる作品制作	予)CG基礎教科書の該当頁を読む(1時間) 復)作品を完成させておく(3時間)
第5週	モデリング応用(1)	スケッチ作成	予)CAD基礎の復習(1時間) 復)基本操作の復習(2時間)
第6週	モデリング応用(1)	3DCADによるモデリング	予)CAD操作の復習(1時間) 復)モデルの修正(2時間)
第7週	モデリング応用(1)	3Dプリンタによる出力	予)モデルの修正(1時間) 復)作品の修正(3時間)
第8週	CGデザイン実習(2)	画像編集ソフトウェアによる動画制作	予)CG基礎教科書の該当頁を読む(1時間) 復)完成の為のコンセプトの明確化(2時間)
第9週	CGデザイン実習(2)	画像撮影、および編集	予)CG基礎教科書の該当頁を読む(1時間) 復)動画編集のための準備(2時間)
第10週	CGデザイン実習(2)	動画の編集	予)CG基礎教科書の該当頁を読む(1時間) 復)動画を完成させる(3時間)
第11週	モデリング応用(2)	3Dモデラの基本操作演習	予)CAD応用の復習(1時間) 復)基本操作の復習(2時間)
第12週	モデリング応用(2)	3DCADによるモデリング	予)基本操作の復習(1時間) 復)モデルの修正(2時間)
第13週	モデリング応用(2)	3Dモデラによる出力	予)モデルの修正(1時間) 復)作品の修正(3時間)
第14週	レポート指導	提出されたレポートをチェックし、修正させる。	予)レポートの点検(1時間) 復)修正作業(2時間)
第15週	予備日		

システムデザイン実習

(必修1単位) 2年後期

久次米利彦、久保田憲司

授業テーマ・内容

ものづくりのための基礎的技術を習得し、さらに高度なコンピュータ技術を駆使した CAD/CAM システムを活用した各種造形装置、工作機械などを使って、与えられた課題に対して各自がアイデアを発揮し、図面作成およびものづくり実習を行う。ものづくりの基本を座学で学ぶには限界があり、自らの手で設計・図面作成を行い、工具や機械、装置を使って実際に‘もの’を作成してはじめて、ものづくりの難しさ、楽しさを味わうことができる。そのためにも多少の技能を磨くことは不可欠であろう。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

スケッチによる作品の表現、CAD による図面の作成能力および図面の読解力を養成し、さらに各種装置の操作を習得することにより、ものづくりの難しさや楽しさを実感するとともに、自主性や創造性を育成することを目指す。
計画的に課題の探求や解決ができるようになるために必須の科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	—%
中間試験	—%
小テスト	—%
レポート	80%
演習課題	—%
平常点	20%

テキスト

プリント

参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

履修条件

備考

担当教員の1名は工業高校での教員経験がある。
発表資料はeラーニングを使って提出する。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	概要、安全教育(1)	システムデザイン実習計画、実習に関する注意	予)シラバスの確認(1時間) 復)諸注意の確認(1時間)
第2週	安全教育(2)	安全に対する注意	予)安全について確認(1時間) 復)内容の確認(2時間)
第3週	NC機械の説明(1)	NC制御された工作機械の説明	予)NCなどについて確認(1時間) 復)NCなどについてまとめる(1時間)
第4週	NC機械の説明(2)	NC制御された工作機械の説明	予)NCなどについて確認(1時間) 復)NCなどについてまとめる(1時間)
第5週	デザイン実習I(1)	スケッチによる設計	予)設計などについて確認(1時間) 復)スケッチについてまとめる(1時間)
第6週	デザイン実習I(2)	スケッチによる設計	予)設計などについて確認(1時間) 復)スケッチについてまとめる(1時間)
第7週	デザイン実習II(1)	CADによる機械製図	予)CADなどについて確認(1時間) 復)CADなどについてまとめる(2時間)
第8週	デザイン実習II(2)	CADによる機械製図	予)CADなどについて確認(1時間) 復)CADなどについてまとめる(2時間)
第9週	プログラム演習(1)	NCプログラムの説明と入力	予)NCプログラムなどについて確認(1時間) 復)NCプログラムについてまとめる(2時間)
第10週	プログラム演習(2)	NCプログラムの入力	予)NCプログラムなどについて確認(1時間) 復)NCプログラムについてまとめる(2時間)
第11週	NC加工実習I(1)	加工機を利用した加工実習	予)加工機などについて確認(1時間) 復)加工物についてまとめる(2時間)
第12週	NC加工実習I(2)	加工機を利用した加工実習	予)加工機などについて確認(1時間) 復)加工物についてまとめる(2時間)
第13週	NC加工実習II(1)	加工機を利用した加工実習	予)加工機などについて確認(1時間) 復)加工物についてまとめる(2時間)
第14週	NC加工実習II(2)	加工機を利用した加工実習	予)加工機などについて確認(1時間) 復)加工物についてまとめる(2時間)
第15週	作品評価	完成した作品の発表	予)作品および資料の確認(1時間) 復)内容の確認(2時間)

卒業研修

(必修4単位) 2年前後期

ものづくり創造工学科教員

授業テーマ・内容

ものづくり創造工学科における学修の締めくくりとして、研究・研修グループに所属し、指導教員の指導のもとで特定のテーマについて研究・研修を行う。最終的には、研究・研修結果は論文形式にまとめ、卒業研修発表会を行い、評価を受ける。指導教員としてはものづくり創造工学科の全教員が担当し、各専門分野別に研究・研修を指導する。総合的な研究・計画などの能力を高めることを目的とする。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

- (1) これまでの知識習得型の授業より前進し、自らで問題を発見してその解決法を見出すといった問題解決能力を養う。
- (2) また研究・研修成果をレポートとしてまとめ、発表する事で工学系特有の文章の書き方やその表現法を修得する。
- (3) さらにプレゼンテーション能力の向上も図る。

他者と協調・協働して計画的に課題の探求や解決ができるようになるために必須の科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	—%
中間試験	—%
小テスト	—%
レポート	—%
演習課題	—%
平常点	100%

(平常点、研究に取り組む姿勢、研究結果をまとめた論文、研究発表会における発表状況により評価する。)

テキスト

各担当教員が指定する。

参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

週単位でレポートが課される場合もある。不備がある場合は注意・指導を行った上、再提出が課される場合もある。

履修条件

備考

授業計画

前期 研究・研修計画の立案、実施を行う。
後期 研究・研修計画の修正、実施、データ処理および考察を行う。
2月下旬の約2週間 レポート作成および発表会準備を行う。
2月末または3月初旬 研究・研修発表会で発表する。

流れ学基礎

(選択2単位) 2年後期

浅尾慎一

授業テーマ・内容

私たちが水や空気などの流体に囲まれて生活しているように、私たちが作り出す機械も流体に囲まれて動いている。そのため、それらの性質を正しく理解して、機械設計に役立たせる必要がある。船が水の上に浮くことも、飛行機が空を飛ぶことも流体力学により説明することができる。

本講義では、流体の挙動を力学的に扱う流体力学の基礎を学ぶ。まず、流体を学ぶ際に必要な基礎事項(単位、流体の運動と力、圧力など)について解説し、その後、実際の様々な事例について、計算処理、演習問題に取り組む。本講義を通じて、機械技術者として必要な流体力学の基礎知識を修得させる。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

流体力学における基礎物理量(密度、比重量、流速、流量、圧力、水頭など)の意味を理解し、定量的な扱いができるようにするとともに、身の回りの流体现象に目を向け、流体力学との関連性に気づく。この科目はものづくりの最も基礎となる三力学のうちの一つであり、機械技術者になるためには修得が必須の科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	60%
中間試験	—%
小テスト	—%
レポート	—%
演習課題	40%
平常点	—%

テキスト

流れ学 流体力学と流体機械の基礎
山田英巳、濱川洋充、田坂裕司 著 森北出版

参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出した演習課題に関して、その場で間違い等の確認を行う。また、間違いの多い個所に関しては全体的に解説を行う。

履修条件

備考

必要に応じて、プリント配布を行う。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	流体の性質(1)	密度、比重量について説明する。	予)密度、比重量を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第2週	流体の性質(2)	流体の粘性と圧縮性について説明する。	予)粘性と圧縮性を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第3週	静止流体の力学(1)	流体にかかる力について説明し、例題を計算させる。	予)力について調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第4週	静止流体の力学(2)	圧力とパスカルの原理について説明し、圧力の決定要素を理解させる。	予)パスカルの原理を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第5週	静止流体の力学(3)	絶対圧力とゲージ圧力について説明し、両者の違いを示す。	予)圧力を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第6週	静止流体の力学(4)	マンメータについて説明し、例題を計算させる。	予)マンメータを調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第7週	静止流体の力学(5)	壁面に働く力、浮力について説明し、例題を計算させる。	予)浮力を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第8週	流れの基礎(1)	流速、流量について説明し、例題を計算させる。	予)流量を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第9週	流れの基礎(2)	流線、流脈線、流跡線について説明する。	予)流線を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第10週	一次元流れ(1)	連続の式について説明し、例題を計算させる。	予)連続の式を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第11週	一次元流れ(2)	ベルヌーイの定理について説明し、例題を計算させる。	予)ベルヌーイの定理を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第12週	一次元流れ(3)	ピトー管、ベンチュリ管について説明し、例題を計算させる。	予)ピトー管を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第13週	管内の流れ(1)	圧力損失について説明する。	予)圧力損失を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第14週	管内の流れ(2)	管摩擦係数と流れ、管の粗さの関係を説明する。	予)管摩擦係数を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第15週	まとめ	まとめ	予)第1週から第14週に学習した内容(約2時間) 復)第1週から第15週に学習した内容(約2時間)
第16週	期末試験		予)ここまでの復習(約2時間)

熱力学基礎

(選択2単位) 2年後期

竹内誠一

授業テーマ・内容

熱力学は熱現象に関する経験的な法則を整理し、科学として体系化したものであり、それは熱力学の第一法則と第二法則を基本として、熱に関する物理的性質を科学的に説明したものである。現在、我々が利用しているエネルギーのほとんどは熱エネルギーであり、それら熱エネルギーの有効利用や近年問題となっている地球環境問題を考えるうえでも、熱力学の知識は必要不可欠である。

本講義では熱力学の基礎的な内容を講義し、また演習を通じてその理解を深めさせ、機械技術者として必要な熱力学の基礎知識を修得させる。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

熱力学に関する基礎的な問題を実際に解くことによって熱に関する基礎的な知識を修得するとともに、熱力学に関する計算力とその応用力を養う。

熱力学はものづくりの最も基礎となる三力学のうちのひとつであり、機械技術者になるためには修得が必須の科目である。

この「熱力学基礎」では熱力学の最も基礎的な内容を学ぶ。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	60%
中間試験	—%
小テスト	—%
レポート	—%
演習課題	40%
平常点	—%

テキスト

工業熱力学
齊藤孟、小泉睦男著 共立出版

参考書(エネルギー管理士試験受験対策用)

やさしい熱計算演習
高村淑彦、山崎正和 (財)省エネルギーセンター

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

基本的に、ほぼ毎回演習課題を課して提出させるので、その都度、チェックして間違っている箇所等を説明する。また、間違いの多かった所等は全体的に解説を行う。

履修条件

備考

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	ガイダンス エネルギー・単位	熱力学の意義、 エネルギー、熱力学で出てくる単位	予)SI単位を確認し、理解する(約2時間) 復)SI単位を復習する(約2時間)
第2週	熱平衡、 熱力学の第一法則	熱平衡、熱力学第一法則	予)熱力学第一法則について調査する(約2時間) 復)熱力学第一法則を理解する(約2時間)
第3週	内部エネルギーと エネルギーの式	内部エネルギー、エネルギーの式	予)エネルギーの式について調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第4週	可逆変化と仕事	可逆変化と不可逆変化、仕事とP-V線図	予)可逆変化およびP-V線図の調査(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第5週	エンタルピー	エンタルピー、可逆変化に対するエネルギーの式	予)エンタルピーについて調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第6週	理想気体の状態式	理想気体の状態方程式、ボイル・シャルルの法則	予)理想気体に関する内容を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第7週	理想気体の比熱	定容比熱、定圧比熱、比熱比	予)比熱に関する内容を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第8週	理想気体の可逆変化1	理想気体の可逆変化(等容変化)	予)等容変化に関する内容を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第9週	理想気体の可逆変化2	理想気体の可逆変化(等圧変化)	予)等圧変化に関する内容を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第10週	理想気体の可逆変化3	理想気体の可逆変化(等温変化)	予)等温変化に関する内容を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第11週	理想気体の可逆変化4	理想気体の可逆変化(断熱変化)	予)断熱変化に関する内容を調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第12週	理想気体の可逆変化5	理想気体の可逆変化(ポリローブ変化・不可逆変化)	予)ポリローブ変化について調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第13週	熱力学の第二法則	熱力学第二法則、熱効率と成績係数	予)熱力学第二法則について調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第14週	カルノーサイクル	カルノーサイクルの性質とその熱効率	予)カルノーサイクルについて調査する(約2時間) 復)演習問題(配布プリント)を解く(約2時間)
第15週	エントロピー	エントロピーの定義とT-S線図	予)エントロピーについて調査する(約2時間) 復)エントロピーを理解する(約2時間)
第16週	期末試験		

プロダクトデザイン実習

(選択2単位) 2年前期

遠藤正二郎*

授業テーマ・内容

プロダクトデザインの対象は、身の回りの日用品、家具、家電、電子機器、車や電車の外内装、大型の業務用機器など多岐に渡り、その領域や役割は増々広がっている。デザイナーはただ「モノ」の形を考えるだけではなく、生活や体験に関わる「コト」のデザインが求められる。また、社会の潜在的なニーズを敏感に察知する力、生産工程から販売プロセス、使用されるシーン、廃棄方法までを考慮した俯瞰的な視点、計画を他者に伝えるコミュニケーション力など、多様で横断的な能力が必要となる。

授業内容の多くは課題の制作とその発表（プレゼンテーション）で構成される。実践的な課題を通して、プロダクトデザインに必要なスキルと方法論を学び、産業の中におけるデザインの価値を創出する能力を養う。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

2つの課題とミニ課題を実施する。第1課題では造形デザインに重きを置いた課題を行い、プロダクトデザインの基礎的な知識とスキルを学ぶ。第2課題は3～5人程度のチームで行い、よりコンセプトに重きを置いた課題となる。また2つの課題とは別に1日で完了するミニ課題を適宜行う。

2つの質の異なる課題とミニ課題を通して、段階的にプロダクトデザインへの理解を深めていくと共に、様々なケースに柔軟に対応できる能力を育む。問題解決に必要な情報を収集し、それを基に解決策を考えることができるようになるために必須の科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	－%
中間試験	－%
小テスト	－%
レポート	－%
演習課題	80%
平常点	20%

テキスト

参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第1課題と第2課題の発表（プレゼンテーション）では視聴者からの質疑応答と講評が行われる。また、可能な限り1回生が聴講し、その際に各発表の評価が行われる。

履修条件

スケッチブック、ペン、鉛筆、カッター、コンバックス、定規、三角スケール、模型材料、カメラなどデザイン制作に必要な道具を各自用意する。また、縮切り（プレゼンテーションの日）までには必ず制作物を完成させる。

備考

本科目は設計・デザイン業務に携わる教員が担当する。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	ガイダンス、ミニ課題A	当授業の説明、ミニ課題Aの制作及び発表	予)シラバスに目を通し、授業概要を把握する(1時間) 復)ミニ課題Aの内容を省察する(1時間)
第2週	ミニ課題B	ミニ課題Bの制作及び発表	予)ミニ課題Bの構想を練る(1時間) 復)ミニ課題Bの内容を省察する(1時間)
第3週	第1回課題	第1課題制作(調査、コンセプト立案、アイデアスケッチなど)	予)第1課題の構想を練る(1時間) 復)第1課題完成に向けて追加作業(1時間)
第4週	第1回課題	第1回課題制作(図面、レンダリング、模型、写真撮影など)	予)第1課題完成に向けて追加作業(1時間) 復)第1課題完成に向けて追加作業(1時間)
第5週	第1回課題	第1課題制作(図面、レンダリング、模型、写真撮影など)	予)第1課題完成に向けて追加作業(1時間) 復)第1課題完成に向けて追加作業(1時間)
第6週	第1回課題	第1回課題制作(プリントアウト、パネル作成、発表の準備など)	予)第1課題完成に向けて追加作業(1時間) 復)次回までに必ず完成させる(1時間+適宜)
第7週	第1回課題	発表(プレゼンテーション)と講評	予)事前に発表の練習を行う(1時間+適宜) 復)自身の発表の省察及び他発表の分析・評価(1時間)
第8週	第1回課題	発表(プレゼンテーション)と講評	予)事前に発表の練習を行う(1時間+適宜) 復)自身の発表の省察及び他発表の分析・評価(1時間)
第9週	ミニ課題C	ミニ課題Cの制作及び発表	予)ミニ課題Cの構想を練る(1時間) 復)ミニ課題Cの内容を省察する(1時間)
第10週	第2回課題	第2課題制作(調査、ブレインストーミング、コンセプト立案、アイデアスケッチなど)	予)第2課題の構想を練る(1時間) 復)第2課題完成に向けて追加作業(1時間)
第11週	第2回課題	第2課題制作(図面、レンダリング、模型、写真撮影など)	予)第2課題完成に向けて追加作業(1時間) 復)第2課題完成に向けて追加作業(1時間)
第12週	第2回課題	第2課題制作(図面、レンダリング、模型、写真撮影など)	予)第2課題完成に向けて追加作業(1時間) 復)第2課題完成に向けて追加作業(1時間)
第13週	第2回課題	第2課題制作(プリントアウト、パネル作成、発表の準備など)	予)第2課題完成に向けて追加作業(1時間) 復)次回までに必ず完成させる(1時間+適宜)
第14週	第2回課題	発表(プレゼンテーション)と講評	予)事前に発表の練習を行う(1時間+適宜) 復)自チームの発表の省察及び他発表の分析・評価(1時間)
第15週	第2回課題	発表(プレゼンテーション)と講評、授業のまとめ	予)事前に発表の練習を行う(1時間+適宜) 復)自チームの発表の省察及び他発表の分析・評価(1時間)

工業材料

(選択2単位) 2年前期

樋口善彦

授業テーマ・内容

本講義では、材料のマイクロ構造とその特徴、およびこれによって構成される実用材料(マクロ材料)の種類と性質について学び、ものづくりに役立つ工業材料の基礎を幅広く学習する。すなわち、はじめに材料工学の基礎となる物質の構造とそれらの物性(物理的性質、化学的性質、機械的性質)について学習し、その後に各種材料;金属材料(鉄鋼材料、非鉄金属材料)、プラスチック材料、セラミックス材料、複合材料の種類や用途について解説する。なお、各種材料においては、できるだけ身近な物を取り上げ、日々の生活にそれぞれ重要な役割を果たしていることを説明する。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

材料工学の基礎となる物質の構造とそれらの物性(物理的性質、化学的性質、機械的性質)をマスターして幅広いものづくりに役立つようにする。また、各種の工業材料については、それらの種類や用途の概略を理解し、最適な工業材料の適用法を修得する。有効な加工を行うために必要な知識を習得するのに必須の科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	80%
中間試験	—%
小テスト	—%
レポート	—%
演習課題	20%
平常点	—%
期末試験受験資格: 授業回数の2/3以上を出席していること	

テキスト

ものづくりに役立つ工業材料の基礎
町田輝史 著 (日刊工業新聞)

参考書

「機械製作法」のテキスト

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回、講義内容のまとめを課し、講義に反映させる。

履修条件

備考

担当教員に製造業(鉄鋼)の実務経験あり。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	講義内容概説	講義内容説明、工業材料の包括的特性	予) 工業材料の例を調べる(約2時間) 復) 学習内容の復習(約2時間)
第2週	材料特性(1)	物理的性質	予) 物理的性質の内容調査(約2時間) 復) 学習内容の復習(約2時間)
第3週	材料特性(2)	化学的性質および腐食	予) 化学的性質と腐食を調査(約2時間) 復) 学習内容の復習(約2時間)
第4週	材料特性(3)	機械的性質と用途	予) 機械的性質の種類を調査(約2時間) 復) 学習内容の復習(約2時間)
第5週	部材の降伏と破壊	弾性破壊条件および降伏条件	予) 延性・脆性破壊を調査(約2時間) 復) 学習内容の復習(約2時間)
第6週	金属の強度と組織	結晶の原子配列と強度	予) 金属強度発現原理を調査(約2時間) 復) 学習内容の復習(約2時間)
第7週	鉄鋼材料(1)	鉄-炭素系状態図と組織	予) 状態図と組織の関係を調査(約2時間) 復) 学習内容の復習(約2時間)
第8週	鉄鋼材料(2)	炭素鋼の熱処理	予) 熱処理法と組織の調査(約2時間) 復) 学習内容の復習(約2時間)
第9週	鉄鋼材料(3)	実用鋼の種類と用途	予) JIS 鋼の種類を調査(約2時間) 復) 学習内容の復習(約2時間)
第10週	非鉄金属材料(1)	アルミニウム、銅、およびその合金	予) Al, Cu の使用例を調査(約2時間) 復) 学習内容の復習(約2時間)
第11週	非鉄金属材料(2)	マグネシウム、ニッケル、チタン、およびその合金	予) Mg, Ni, Ti の使用例を調査(約2時間) 復) 学習内容の復習(約2時間)
第12週	プラスチック	プラスチックの性質、種類および用途	予) プラスチックの種類と使用例調査(約2時間) 復) 学習内容の復習(約2時間)
第13週	セラミック系材料	セラミックスの種類と用途	予) セラミックスの性質を調査(約2時間) 復) 学習内容の復習(約2時間)
第14週	複合材料	複合材料の特性	予) 複合材料の性質を調査(約2時間) 復) 学習内容の復習(約2時間)
第15週	総合学習	演習課題	予) 学習内容振り返り(約2時間) 復) 演習内容まとめ(約2時間)
第16週	期末試験		

生産工学入門

(選択2単位) 2年前期

小池 稔

授業テーマ・内容

ものを生産する歴史は、人間の歩みそのものと言ってよい。数千年の経過の中で、極めて多くの「もの」を生み出してきた。生産に関わる工学、言い換えれば、知の体系化・理論化を一般に「生産工学」と呼ぶ。本講義では新製品が設計から生産までどのように実現されていくかを整理しながら、その把握において必要最小限の知識を解説する。生産工学は機械工学、特に機械製作法・機械製図・機械設計・工業材料との関係が深く、また、電気・情報・通信の各工学とも結び付いている。本講義ではそれらの関係・結び付きについても概説していく。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

新製品が設計から生産までどのように実現されていくかの必要最小限の知識を得る。
「ものづくり」に携わる中堅技術者として基礎的な知識・技術を修得するための科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	40%
中間試験	—%
小テスト・レポート	40%
演習課題	10%
平常点	10%

テキスト

生産工学概論 職業能力開発大学校 能力開発センター 編

参考書

生産工学入門 NEDEK 研究会編著 森北出版
入門編 生産システム工学 人見勝人 共立出版
生産工学 本位田光重 他著 コロナ社

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題レポートの添削・返却、解答の書き方の指導を行う。期末試験の翌週に得点分布を報告、略解を解説する。

履修条件

備考：予習、復習で教科書を精読する際、分からない専門用語があれば自分で調べてノートに記載しておくこと。

備考

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	情報倫理	設計・製造における情報倫理の重要性	予) 情報倫理ハンドブックの振り返り(1時間) 復) 情報倫理の重要性の振り返り(1時間)
第2週	生産工学概説	生産工学の全体像	予) 教科書の「はしがき」に目を通す(1時間) 復) 教科書の索引に目を通す(2時間)
第3週	生産と工場	生産の流れと工場分類	予) これまで見学した工場の振り返り(1時間) 復) 生産の4Mの振り返り(2時間)
第4週	生産計画	材料計画と日程計画	予) 数学Ⅱ「不等式の表す領域」の復習(1時間) 復) 連立不等式の復習(2時間)
第5週	生産統制	作業分配と作業統制	予) 線形計画法の復習(1時間) 復) かんぱん方式の振り返り(1時間)
第6週	在庫管理	日常業務と適正在庫	予) 「比例」「反比例」の復習(2時間) 復) 在庫管理の振り返り(2時間)
第7週	工程改善	工程分析と作業動作分析	予) 創造設計演習Ⅰの振り返り(2時間) 復) ジョブ順序の決定法の復習(2時間)
第8週	品質保証	ISO9000 シリーズと社内標準	予) JISの各部門の振り返り(2時間) 復) JIS Q部門の振り返り(2時間)
第9週	品質管理	品質管理、検査と再発防止	予) 数学B「確率分布と統計的な推測」の復習(2時間) 復) QC七つ道具の復習(3時間)
第10週	設備管理	設備保全と設備環境管理	予) 特性要因図と管理図の振り返り(2時間) 復) 信頼度の振り返り(2時間)
第11週	原価計算	製造原価と原価計算	予) 企業経営学の振り返り(1時間) 復) 材料費の振り返り(2時間)
第12週	運搬管理	運搬管理と運搬機器	予) ロボティクス基礎の振り返り(2時間) 復) 物流装置の振り返り(2時間)
第13週	職場規律	就業規則と常識的な職場規律	予) くらしと法律の振り返り(2時間) 復) 常識的な職場規律の振り返り(2時間)
第14週	生産計画演習	生産予測と最適ロット量解析	予) 線形回帰の復習(2時間) 復) ロット・スケジューリングの復習(3時間)
第15週	期末試験		予) 期末試験対策(5時間) 復) 期末試験に対する反省(1時間)
第16週	総合演習	生産工学全般に関する演習	予) 期末試験の正解答の作成(2時間) 復) 期末試験の正解答の清書・提出(2時間)

機構学

(選択2単位) 2年前期

牧田太郎

授業テーマ・内容

はじめに、機械を構成する上で主要な要素となる種々の機構について、運動を解析する上で必要な基本的事項を解説・確認する。
その後、リンク機構・摩擦伝動機構・歯車伝動機構について、模型・画像を交えて紹介。各要素の動作や機能を決定する基本物理量の意味を解説し、単位を含めた数量的な取扱いについては解説後に演習を行って知識の定着をはかる。また、各機構の図式解析や数量解析の方法についても概説する。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

機械要素の回転運動を解析する上で必要となる変位、速度、加速度の関係を理解するとともに、具体的な機構について、基本的物理量の意味と算出法、実際の場面での用例を理解する。機械の基本原理を身に付けるために必須の科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	80%
中間試験	—%
小テスト	—%
レポート	—%
演習課題	—%
平常点	20%

テキスト

機構学入門
高 行男著 東京電機大学出版局

参考書

機械設計の教科書・参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

時間内の演習や、宿題をチェックし、間違いが多い点などについて注意喚起と解説を行う。
期末試験については解答および間違いが多い点などの注意すべき点を掲示する。

履修条件

備考

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	機械と機構	1. ガイダンス 2. 機械と機構の定義、違いについて解説する。	予) シラバスで受講内容を確認 (0.5 時間) 復) 機械の定義 (1 時間)
第2週	機構学における基礎数学 運動と変位、速度	物体の直線運動における変位と速度の定義を解説。公式を明示して例題を解く。	予) 速度の意味、定義式・公式 (1 時間) 復) 計算手順・単位の確認 (1.5 時間)
第3週	回転体の運動① 周速度と角速度	物体の回転運動における角変位と角速度の定義を解説。公式を用いて例題を解く。	予) 角速度の意味、定義式・公式 (2 時間) 復) 用語・単位と計算手順の確認 (2 時間)
第4週	回転体の運動②角速度・ 回転速度・回転数	物体の回転運動における角速度と回転速度の違いを解説し、単位変換の例題を解く。	予) 角速度と回転速度の違い (2 時間) 復) 用語・単位と単位変換手順確認 (2 時間)
第5週	回転体の運動と瞬間中心	円盤の転がり運動を例に、瞬間中心の意味と作図による求め方を解説する。	予) 円の半径と接線の作図法 (2 時間) 復) 瞬間中心の作図解法 (2 時間)
第6週	ここまでのまとめ	物体の回転運動に関するまとめと作図・計算演習	予) 用語・記号・単位・公式の確認 (2 時間) 復) 作図と単位を含む処理手順確認 (2 時間)
第7週	リンク機構① 四節回転連鎖 (1)	機素、対偶の解説。四節回転連鎖の構成要素について模型で解説。作図・計算演習。	予) リンク機構について独自調査 (1 時間) 復) 四節回転連鎖の作図法の確認 (2 時間)
第8週	リンク機構② 四節回転連鎖 (2)	四節回転連鎖の瞬間中心の求め方について解説。作図・計算演習を進める。	予) 瞬間中心の性質と求め方 (2 時間) 復) 四節回転連鎖の作図法の確認 (2 時間)
第9週	リンク機構③ スライダクランク機構	スライダクランク機構について解説。作図・計算演習を進める。	予) 瞬間中心の性質と求め方 (2 時間) 復) 四節回転連鎖の作図法の確認 (2 時間)
第10週	摩擦伝動機構①速度比	摩擦伝動機構の伝動原理を解説し、摩擦車の直径、回転数と速度比を計算する。	予) シラバスでの受講内容の確認 (2 時間) 復) 速度比の計算式、計算の手順 (2 時間)
第11週	摩擦伝動機構② 押し付け力と伝達動力	摩擦伝動機構の伝達動力と押し付け力との関係式を示し、例題の解法を解説する。	予) 外接2円の作図法 (2 時間) 復) 計算式、計算の手順 (2 時間)
第12週	歯車伝動機構① 歯車の基礎	歯車について、基本的な構造・用語・記号について解説する。	予) 歯車について独自調査 (1 時間) 復) 歯車諸元の確認 (2 時間)
第13週	歯車伝動機構② モジュールと速度比	歯車のピッチ円直径、歯数と速度比・変速比について解説し、例題を解く。	予) 摩擦伝動機構の速度比定義式 (2 時間) 復) 計算式、計算の手順 (2 時間)
第14週	歯車伝動機構③	3 個以上の歯車による歯車伝動機構(歯車列)実機で用いられる歯車伝達機構の紹介など。	予) 歯車列の定義と構造 (2 時間) 復) 歯車列の速度比の求め方 (2 時間)
第15週	まとめ、演習	リンク機構および各種動力伝動機構についてまとめ、補足の演習問題を解く。	予) 既習問題の計算法、計算手順 (2 時間) 復) 既習問題との共通点、相違点 (2 時間)
第16週	期末試験		予) 試験勉強 (4 時間) 復) 答え合わせ (2 時間)

塑性加工学

(選択2単位) 2年後期

久次米利彦

授業テーマ・内容

金属は外力を加えることによって変形させることができる。この性質を利用した塑性加工によって、多くの金属製品が製造されている。本講義では、塑性加工のはたらきについて解説する。次に各種の塑性加工法を解説する。また材料の性質とその利用法について解説する。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

塑性加工に関する知識を身につけ、加工と組織との関係について学習することを目標とする。
材料の加工に関する知識を習得するために必要な科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	60%
中間テスト	－%
小テスト	－%
レポート	－%
演習課題	20%
平常点	20%

テキスト

基礎塑性加工学 第3版
川並高雄ほか著 森北出版

参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

履修条件

備考

講義で使用する資料を事前にeラーニングで公開している。また、講義中に補足したプレゼン資料をPDFファイルにしてeラーニングで公開している。担当教員に製造業(鉄鋼)の実務経験がある。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	ガイダンス	講義内容の説明	予) 塑性加工について確認(2時間) 復) 内容の確認(2時間)
第2週	塑性加工の基礎	塑性加工とは何か	予) 塑性加工の基礎などについて確認(2時間) 復) 公開したPDFファイル内容確認(2時間)
第3週	塑性加工の働き	塑性加工法の利用、目的	予) 塑性加工の目的などについて確認(2時間) 復) 公開したPDFファイル内容確認(2時間)
第4週	素材の作り方1	板の圧延	予) 板の圧延などについて確認(2時間) 復) 公開したPDFファイル内容確認(2時間)
第5週	素材の作り方2	形鋼の圧延	予) 形鋼の圧延などについて確認(2時間) 復) 公開したPDFファイル内容確認(2時間)
第6週	素材の作り方3	棒・線の圧延、鋼管の圧延	予) 棒・線・管の圧延などについて確認(2時間) 復) 公開したPDFファイル内容確認(2時間)
第7週	加工法のいろいろ1	せん断加工、曲げ加工	予) せん断加工などについて確認(2時間) 復) 公開したPDFファイル内容確認(2時間)
第8週	加工法のいろいろ2	深絞り加工、張り出し加工	予) 深絞り加工などについて確認(2時間) 復) 公開したPDFファイル内容確認(2時間)
第9週	加工法のいろいろ3	引抜き加工、押し出し加工	予) 引抜き加工などについて確認(2時間) 復) 公開したPDFファイル内容確認(2時間)
第10週	加工法のいろいろ4	鍛造、プラスチックの加工	予) 鍛造加工などについて確認(2時間) 復) 公開したPDFファイル内容確認(2時間)
第11週	材料の性質とその利用法1	金属材料の特性	予) 材料の性質などについて確認(2時間) 復) 公開したPDFファイル内容確認(2時間)
第12週	材料の性質とその利用法2	加工による材質の変化	予) 材料の性質などについて確認(2時間) 復) 公開したPDFファイル内容確認(2時間)
第13週	トライボロジー1	摩擦と潤滑	予) 摩擦などについて確認(2時間) 復) 公開したPDFファイル内容確認(2時間)
第14週	トライボロジー2	工具材料	予) 工具材料などについて確認(2時間) 復) 公開したPDFファイル内容確認(2時間)
第15週	まとめ	総まとめ	予) 1週から14週の内容確認(2時間) 復) 公開したPDFファイルを見直し(2時間)
第16週	期末試験		

創も6mのり
造り

自動制御

(選択2単位) 2年後期

内藤雪夫*

授業テーマ・内容

自動制御は、人間が直接的にはなく、プログラムなどにより対象物を自動的に動作させる技術であり、機械や製造プロセスなど幅広い分野で応用されている。自動制御は、「あらかじめ定められた順序に従って制御の各段階を逐次進めていく『シーケンス制御』」と「制御量を目標値と比較し、両者を一致するような修正動作を行う『フィードバック制御』」に大きく分類される。

本授業では、『フィードバック制御』の基礎となる古典制御理論を中心に、対象物や制御系の表現方法、特性評価方法、安定性評価などの基本となる事項を学ぶ。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

ラプラス変換とそれを用いた伝達関数、基本的なブロック線図、過渡応答、周波数応答とボード線図、及びフィードバック制御系の特性とその評価、制御からみた機械の設計など制御の基礎を修得する。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	50%
中間試験	—%
小テスト	30%
レポート	—%
演習課題	—%
平常点	20%

テキスト

- やさしい機械制御 金子敏夫著 日刊工業新聞社
- プリント

参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義で2回小テストを実施し、間違いの多いポイントを中心に解説を行う。

履修条件

備考

担当教員は、製造業(鉄鋼)での自動制御モデルの開発・導入の実務経験を持つ。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	ガイダンス	講義内容の説明、各種自動制御	予)シラバスで授業の全体概要を確認する(2時間) 復)身の回りの自動制御事例を抽出する(2時間)
第2週	ラプラス変換	ラプラス変換、ラプラス逆変換	予)ラプラス変換、逆変換の内容を確認する(2時間) 復)ラプラス変換の方法、変換効果を考える(2時間)
第3週	伝達関数(1)	比例要素、微分要素、積分要素	予)伝達関数使用の狙いを考える(2時間) 復)伝達関数使用の狙いを理解する(2時間)
第4週	伝達関数(2)	1次遅れ要素、2次遅れ要素、むだ時間要素	予)各要素の伝達関数を考えてみる(2時間) 復)伝達関数各係数の物理的意味を理解する(2時間)
第5週	ブロック線図	基本結合則、等価変換	予)等価変換の狙いを考える(2時間) 復)各種変換方法を理解する(2時間)
第6週	過渡応答	要素応答、応答特性評価、1次遅れ要素の応答、2次遅れ要素の応答	予)ステップ応答の意味を考える(2時間) 復)伝達関数各係数の物理的意味を理解する(2時間)
第7週	周波数応答(1)	周波数伝達関数	予)周波数応答の意味を考える(2時間) 復)ナイキスト線図を理解する(2時間)
第8週	周波数応答(2)	ボード線図、過渡応答と周波数応答の関係	予)ボード線図利用の狙いを考える(2時間) 復)主な要素のボード線図を理解する(2時間)
第9週	フィードバック制御の特性(1)	フィードバック制御の特長	予)フィードバック制御の特長を考える(2時間) 復)ブロック線図の基本要素を理解する(2時間)
第10週	フィードバック制御の特性(2)	定常特性と評価、閉ループ系の応答	予)各種系の定常偏差を考える(2時間) 復)定常偏差をなくす方法を理解する(2時間)
第11週	フィードバック制御の特性(3)	開ループ系の応答	予)系の応答の各種評価尺度項目を理解する(2時間) 復)偏差、安定性、速応性の関係を理解する(2時間)
第12週	フィードバック制御系の安定性と評価	安定限界、安定評価	予)どのような状態が安定か考える(2時間) 復)ナイキスト・ボード線図の方法を理解する(2時間)
第13週	制御からみた機械の設計	制御系と機械系の組み合わせ	予)どのような組み合わせが良いか考える(2時間) 復)制御系・機械系調和の条件を理解する(2時間)
第14週	古典制御と現代制御	古典制御、現代制御	予)古典制御の限界を考える(2時間) 復)現代制御の概要を理解する(2時間)
第15週	総合復習	講義の復習	予)過去の小テストの内容を確認する(約2時間) 復)1~14週の講義内容を確認する(約2時間)
第16週	期末試験		

産業組織と工学倫理

(選択2単位) 2年後期

加藤木 健*

授業テーマ・内容

耐震強度偽装、自動車のリコールなど技術に関係する企業不祥事が多発している。また、技術の進歩は私たちの生活を便利にする一方、環境問題など社会へのさまざまな負の側面も引き起こしている。技術者は企業組織の中で専門的知識を基に様々な仕事をしており、これらの問題に無関係な立場ではない。技術の効用を技術者の判断に委ねられる場合もある。そのために、技術者は、一般の人々が受ける利害得失を考え、企業が遵守すべきコンプライアンスを考慮しながら、社会的に適切な行動をとることが求められる。つまり、技術者としての工学倫理の理解が必要となる。

この科目では、産業組織の中での技術者活動について考える。ケーススタディの討論を通じて工学倫理的な考え方と、職場での安全意识や生産管理、品質管理、機械設備の保全活動、技術者に必要な原価意識など実践的な内容の修得を目標とする。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

産業組織の中で、技術者の保有すべき工学倫理と生産活動に関する基盤的知識を身に付けることができる。特に、ものづくりの生産現場で役に立つ、製品設計、安全活動、生産管理、品質管理、原価管理、設備保全、改善活動、データ解析、などの実践的な知識が修得できる。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	70%
中間試験	—%
小テスト	30%
レポート	—%
演習課題	—%
平常点	—%

テキスト

「はじめの技術者倫理」
北原義典 著 講談社

プリント冊子配布 (または WEB 上に事前掲載)

参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義内容を理解・考察し、内容に対する高度な疑問点を考えさせ、講義の終わりに質問事項として全員に提出させる。担当教員は質問事項を分類・分析し、主要事項については次の講義の冒頭で取り上げ、解説を行うことにより、受講生の講義内容への理解を深める。

履修条件

備考

担当教員は製造現場(鉄鋼、工業用センサー)において、開発設計、システム設計、生産管理、品質管理、安全管理、原価管理、環境管理、設備保全の実務経験を持つ。企業経営の経験も持つ。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	技術者の社会的責任と倫理	専門職の倫理、倫理と法律	予)テキストのまえがきの記述を理解する(2時間) 復)倫理と法律の補充関係を確認する(2時間)
第2週	技術者の行動規範	技術者の行動規範、リスク管理	予)テキスト第2章を読んでおく(2時間) 復)リスクマネジメントについて考察する(2時間)
第3週	研究倫理	研究者の行動規範、研究ノート	予)テキスト第3章を読んでおく(2時間) 復)研究ノートの重要性を理解する(2時間)
第4週	説明責任	説明責任、リスクコミュニケーション	予)テキスト第4章を読んでおく(2時間) 復)説明責任遂行に必要な事項を考察する(2時間)
第5週	知的財産の保護	特許・実用新案、職務発明、営業秘密	予)テキスト第5章を読んでおく(2時間) 復)産業財産権、営業秘密を整理する(2時間)
第6週	内部告発	CSR、内部告発	予)テキスト第6章とプリントCSRを読む(2時間) 復)内部告発の許される条件を考察する(2時間)
第7週	製造物責任、品質管理	製造物責任法(PL法)、TQC	予)テキスト第7章を読んでおく(2時間) 復)PL法について理解する(2時間)
第8週	ヒューマンエラー	安全、ヒヤリハット活動(予防)	予)テキスト第8章を読んでおく(2時間) 復)安全管理と品質管理の共通性を理解する(2時間)
第9週	化学と倫理	化学物質、ナノ材料、遺伝子操作と倫理	予)テキスト第9、10、11章を読んでおく(2時間) 復)ヒヤリハット活動の意義を考察する(2時間)
第10週	情報ネットワーク社会と倫理	個人情報、知的財産権の取り扱い	予)テキスト第12章を読んでおく(2時間) 復)情報漏洩の危険性を理解する(2時間)
第11週	情報新技術と倫理	AI、ビッグデータ、VR、ARと倫理	予)テキスト第13章を読んでおく(2時間) 復)AIの人間行動に及ぼす影響を考察する(2時間)
第12週	環境保全と倫理	環境、資源、エネルギー	予)テキスト第14章を読んでおく(2時間) 復)サステナビリティについて理解する(2時間)
第13週	生産管理、設備保全	IoT、AI、ロボット、予知保全	予)IoT、AIについて調べておく(2時間) 復)第4次産業革命について理解する(2時間)
第14週	原価管理	原価計算、損益分岐点	予)損益分岐点について調べる(2時間) 復)原価計算の重要性を復習し理解する(2時間)
第15週	多様性社会と技術者倫理	コネクティブ社会、IoT、AI、ロボット	予)テキスト第15章を読んでおく(2時間) 復)講義全体を理解し、期末試験に備える(3時間)
第16週	期末試験		

デザイン学基礎

(選択4単位) 2年前期

谷中亜紀*、松井浩子*

授業テーマ・内容

本授業は、デザイン以前に得ておくべき基礎知識、色彩・形状・陰影・材質と、その応用を学ぶ演習科目である。たとえば普段、何気なく目にしてる物を描こうとしたとき、いかに自分がその形や色を把握していないかに気付かされる。授業は、対象物をよく観察して描き、形づくる事により認識の歪みに気付き、それを繰り返すことでイメージを自身のものとして定着させる。最終的に、観察したものを見える形にすることで、物への理解を深める。担当教員は2名で2グループに分かれて前半・後半で内容が入れ替わる。

●スケッチや模写をすることにより、ものの形をしっかりと観察し理解する。また、どのデザインにも必要な色彩のイメージから選び方までを学ぶ。(担当:谷中)

●3DCG ソフトウェア (Blender) を用いて空間を認識し、簡単なアニメーションを制作することで動きについても考察を深める。(担当:松井)

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

デザインの基礎を修得するために必須の科目である。物事を漫然と見ている事に気付き、デザインおよびものづくりに必要な世の中の事象を観察する習慣を身に付ける。加えて、3DCG アニメーションの制作を通じて、映像制作の基礎を体得していく。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	—%
中間試験	—%
小テスト	—%
レポート	—%
演習課題	70%
平常点	30%

テキスト

<3DCG> 授業毎に PDF ファイルを配布。

参考書

<3DCG> CG 基礎の受講生は教科書を持参すること

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

どちらも、授業内でその都度、対応する。

履修条件

- ・Adobe Illustrator、Photoshop の経験があること。
- ・演習室 PC の台数により人数制限の可能性あり。
- 人数が多い場合は、ものづくり創造工学科の2年次生優先。

備考

- ・遅刻、早退、欠席の扱いについてはガイダンスで説明をする。
- ・3DCG は7回でひとつの作品を完成させる為、授業の進行に遅れないように制作を進めること。
- ・本科目はデザイン業務に携わる教員(両名とも)が担当する。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	ガイダンス	デザイン学基礎授業概要	予)シラバスに目を通し授業概要を把握しておくこと(約4時間) 復)説明のあった授業内容・ねらいを確認しておくこと(約4時間)
第2週	スケッチ・模写	モノの形をしっかりと見て「観察すること」を目的として、形や景色を写し取る	予)モノの形を観察し描くものを選んでおく(約4時間) 復)実際に描いた後に再度、形の確認をする(約4時間)
第3週	トレース	形を写し取り単純化してデザインのモチーフを作成	予)デザインパターンを色々見ておく(約4時間) 復)形の「単純化」をもう一度見直す(約4時間)
第4週	色彩学の基礎	色の特性・使い方を理解する	予)自分の色のイメージを見直しておく(約4時間) 復)色彩学で使われる用語を確認しておく(約4時間)
第5週	カラーコーディネート	色の組み合わせ方を学ぶ	予)もう一度、自分の色のイメージを見直す(約4時間) 復)その他の組み合わせ方も考えてみる(約4時間)
第6週	平面から立体へ①	立体写真の見え方と遠近法	予)奥行きのある景色を観察しておく(約4時間) 復)見え方による遠近法を確認する(約4時間)
第7週	平面から立体へ②	レイヤーを重ねてつくるフォトモの制作	予)遠近感を確認し制作するものと考えておく(約4時間) 復)カードの重なりを確認し課題を完成させる(約4時間)
第8週	平面から立体へ③	色画用紙を折って重ねるポップアップカードの制作	予)色々なグリーティングカードを観察しておく(約4時間) 復)実際に使えそうなデザインを確認しておく(約4時間)
第9週	3DCG 基本	インタフェースや基本的なツールの解説	予)「入門CGデザイン」を読んでおく(約4時間) 復)次週までに一度はソフトに触れる(約4時間)
第10週	モデリング	3DCG 空間で形をつくる	予)「入門CGデザイン」モデリングの項目を読んでおく(約4時間) 復)授業の課題を完成させる(約4時間)
第11週	モデファイヤー	モデルデータの修正や変形方法	予)車のデザインについて研究しておく(約4時間) 復)車のモデリングを各自、進める(約4時間)
第12週	マテリアル	質感表現とテクスチャの作り方、貼り方	予)「入門CGデザイン」質感の項目を読んでおく(約4時間) 復)車のモデリングを次回、提出(約4時間)
第13週	ライティング	光源によって変化する見え方を学ぶ	予)「入門CGデザイン」ライティングの項目を読んでおく(約4時間) 復)ライティングを完成させておく(約4時間)
第14週	アニメーション①	アニメーションの基本	予)指定する動画の構成を研究しておく(約4時間) 復)アニメーションを完成させる(約4時間)
第15週	アニメーション②	編集作業	予)完成イメージに合わせた音源を探しておく(約4時間) 復)編集作業を完了させる(約4時間)
第9週～第15週	グループ入れ替え		

ビジュアルデザイン

(選択4単位) 2年後期

谷中亜紀*

授業テーマ・内容

映像・写真・コマーシャル・標識などのサイン・ポスター・ホームページ。ビジュアルデザインとは「視覚的な表現で伝達すること」を目的としたデザインである。「見える」ということと「見る」ということは同じではない。まずは、日常にあふれているたくさんのデザインをしっかりと見ることで、そこから色彩・形・光などを通して「見ること」に対する意識のあり方を考えていく。たくさんものを見ることにより、新たな“発見”がある。その“発見”から色々な考え方のヒントを得ることができる。「広告」は直接的ではないけれども、発信する人・受け取る人のコミュニケーションで成り立っている。「発信する側」と「情報を受け取る側」の両者からの視点で、ものを考えデザインしていく手段を「五感」をキーワードに学ぶ。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

色々な人の意見を聞きながら、モノの見かたを改めて考え直し、それを踏まえて自分のイメージを「形」にすることを目標とする。形にする「技術」を学ぶのではなく、理解してそれを伝えていくことに重点をおく。デザイン実習を通して、目的を達成するために、粘り強く自律的に論理的な判断ができるようになるために必須の科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	－%
中間試験	－%
小テスト	－%
レポート	－%
演習課題	80%
平常点	20%

テキスト

毎回、プリントを配布

参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内でその都度、対応する。

履修条件

デザイン演習室のPC台数の関係で履修人数の制限あり。☆
参考資料として随時プリントを配布。講義やプリントをもとに自身で調査を加え、レポートや課題を作成・提出してもらう。

備考

・本科目はデザイン業務に携わる教員が担当する。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	ビジュアルデザイン・授業概要	ビジュアルデザインとは？	予)シラバスに目を通し、授業概要を把握しておくこと。(約2時間) 復)要点をまとめること。(約2時間)
第2週	グラフィックデザインのしくみ	ポスターを内容別に分類し、何で構成されているのかを分析。	予)駅などで色々なポスターを観察する。(約4時間) 復)どんなポスターが目を引くのか再度観察する。(約4時間)
第3週	レイアウトデザイン	レイアウトの組み立て方。構成の仕方を学ぶ。	予)illustratorの使い方を確認しておく。(約4時間) 復)レイアウトの基礎知識をしっかりと復習。(約4時間)
第4週	「色」を意識したグラフィック	具体的な「形」のデザインだけではなく、抽象的なイメージ(色のイメージ)に重点を置く。	予)色の各自のイメージを考えておく。(約4時間) 復)余白の使い方を確認する。(約2時間)
第5週	タイポグラフィ	文字自体をデザイン化したタイポグラフィ。イメージと文字の融合。	予)文字のデザインを探してみる。(約4時間) 復)タイポグラフィの使い道を考えてみる。(約4時間)
第6週	パッケージデザイン	味覚を意識し、パッケージデザインをイメージに重点をおいて見ていく。	予)食品パッケージを収集しておく。(約4時間) 復)色と味覚の関係を確認。(約4時間)
第7週	印刷という表現 - 特殊印刷 -	視覚だけではなく、その他の五感にも働きかける特殊印刷について。	予)前回の食品パッケージから印刷の種類を確認してみる。(約4時間) 復)用紙の質感を意識して見てみる。(約4時間)
第8週	音のカタチ	漫画の中から擬音語・擬態語などのカタチをひろう。	予)漫画の中の擬音語・擬態語を意識する。(約4時間) 復)新しい形を追求してみる。(約4時間)
第9週	ショップカードのデザイン	形を含めたショップカードのデザインを色々考察し、カードを作成。	予)色々なショップカードを収集。(約6時間) 復)形のデザインを含め再度ショップカードを意識して収集する。(約4時間)
第10週	ピクトグラム	会社などで使われているロゴの役割から、道路標識・製品のマークのデザイン。	予)看板・標識を意識して見る。(約4時間) 復)面白いマークを探してみる。(約4時間)
第11週	インタラクティブデザイン	ホームページや携帯電話の中で使われているアイコンデザイン。	予)色々なホームページを見ておく。(約6時間) 復)使われているアイコンまで観察する。(約4時間)
第12週	エディトリアルデザイン(本のデザイン)	本の仕組みや色々なデザインについて学び、本の表紙のデザインを作成する。	予)本のデザインとは何か考察する。(約4時間) 復)意識して書店で本のデザインを確認。(約4時間)
第13週	雑誌のレイアウトと編集	リサーチから収集・編集まで。観光ガイドブックの特集記事の作成。	予)観光ガイドブックとは、どういう情報が掲載されているのかリサーチしておく。(約6時間) 復)情報の編集の仕方を再確認する。(約4時間)
第14週	VI計画①	デザインワークの企画・各種ツールの作成。	予)1つの企画からどんなものが必要なのか考えておく。(約6時間) 復)企画書までは完成させる。(約4時間)
第15週	VI計画②	VI計画に基づくフライヤーの制作まで。	予)企画書に基づいたフライヤーのイメージをまとめておく。(約4時間) 復)課題を完成させておく。(約4時間)

コミュニケーションデザイン

(選択2単位) 2年後期

富永哲貴

授業テーマ・内容

コミュニケーションとは、情報の発信者と情報の受信者がさまざまな方法で意味概念を共有することである。コミュニケーションを効果的、効率的に行うためには、表現を受け取る側の知覚や理解の特性、文化的な背景に配慮する必要がある。本講義では、マルチメディアによるさまざまな表現形態やデザインについて理解を深める。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

情報を発信するためには、画像を貼り付け、文字を入力するだけではなく、情報が「伝わる」ように工夫しなければならない。情報の受信者に正しく発信する方法を学び、視覚情報として伝えるための技術を身に付ける。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	－%
中間試験	40%
小テスト	－%
レポート	－%
演習課題	40%
平常点	20%

テキスト

未定

参考書

デザインの学校 これからはじめる illustrator の本
「CS6対応版」 技術評論社
VISUAL COMMUNICATION DESIGN デザインの教科書1
C&R 研究所
VISUAL COMMUNICATION DESIGN デザインの教科書2
C&R 研究所

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テーマ毎に課題が課される。不備がある場合は注意・指導を行った上、再提出が課される場合もある。

履修条件

「デザイン学基礎」・「プロダクトデザイン実習」を履修していることが望ましい。
また、「ビジュアルデザイン」と同時に履修登録すること。
※人数制限有

備考

デザイン演習室にて講義・演習を行うため、履修可能人数は 24 名である。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第 1 週	ガイダンス	授業概要の説明	予)授業計画の通読 (約 1.5 時間) 復)授業概要の確認をする (約 1.5 時間)
第 2 週	コミュニケーションとは ①	コミュニケーションの原理と特徴 ①	予)言語伝達について調べる (約 2 時間) 復)講義ノートの復習 (約 2 時間)
第 3 週	コミュニケーションとは ②	コミュニケーションの原理と特徴②	予)非言語伝達について調べる (約 2 時間) 復)講義ノートの復習 (約 2 時間)
第 4 週	ひとの視覚特徴	視覚情報の伝わる仕組み	予)視覚特徴調和理論について調べる (約 2 時間) 復)講義ノートの復習 (約 2 時間)
第 5 週	情報構造の視覚化とは	いろいろな視覚の法則	予)視覚の法則について調べる (約 2 時間) 復)講義ノートの復習 (約 2 時間)
第 6 週	色彩と質感 ①	色彩理論と色彩心理学	予)色彩理論と色彩心理学について調べる (約 2 時間) 復)講義ノートの復習 (約 2 時間)
第 7 週	色彩と質感 ②	色彩調和理論	予)調和理論について調べる (約 2 時間) 復)講義ノートの復習 (約 2 時間)
第 8 週	調和理論の比較	組み合わせの法則	予)組み合わせの法則について調べる (約 2 時間) 復)講義ノートの復習 (約 2 時間)
第 9 週	中間試験		予)第 8 週までの内容 (約 2.5 時間) 復)第 8 週までの内容 (約 2.5 時間)
第 10 週	演習課題 ①	Illustrator を用いた演習課題①	予)演習課題の構想を練る (約 2 時間) 復)演習課題の完成 (約 2 時間)
第 11 週	演習課題 ②	Illustrator を用いた演習課題②	予)演習課題の構想を練る (約 2 時間) 復)演習課題の完成 (約 2 時間)
第 12 週	演習課題 ③	Illustrator を用いた演習課題③	予)演習課題の構想を練る (約 2 時間) 復)演習課題の完成 (約 2 時間)
第 13 週	演習課題 ④	総合課題①	予)総合課題の構想を練る (約 2 時間) 復)演習課題の完成 (約 2 時間)
第 14 週	演習課題 ⑤	総合課題②	予)総合課題の構想を練る (約 2 時間) 復)演習課題の完成 (約 2 時間)
第 15 週	まとめ	講義のまとめ・課題の講評	予)再提出課題の完成 (約 2 時間) 復)今までの講義・課題を確認する (約 2 時間)

データ処理法

(選択2単位) 2年後期

松原孝典

授業テーマ・内容

近年、「AI」「クラウド」「ビッグデータ」などの情報通信技術(ICT)の進展により、膨大な量のデータが交換され、インターネットを使うことで誰でも簡単に多量のデータを入手できる。より良い製品開発をするためには、多量のデータを適切な方法で抽出し、処理して客観的に分析し、適切な方法で表現し、他者に伝えることがより重要となってきた。

本授業では、データの取得法・分析法・表現法について取り扱う。まず、データの統計的な分析法を学び、Microsoft Excel を用いて平均や標準偏差などの統計量を算出する演習を行う。次に、表現法について、グラフや特性を理解し、グラフを作成する演習を行う。最後に、アンケート調査を題材に、ある目的を決めてデータを取得し、集計解析する。理解を深めるため、頻繁に確認小テストを行う。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

- (1) データの分析法: 平均・標準偏差・相関係数などの統計量の算出法を理解する。
- (2) データの表現法: 他者に伝わりやすい図表表現について理解する。
- (3) データの取得法: ある一定の目的を定めて、データを取得できるようになる。

本授業は、情報通信技術をツールとして活用して、他者と協働して課題解決するために必要な科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	40 %
中間試験	— %
小テスト	— %
レポート	— %
演習課題	60 %
平常点	— %

テキスト

参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題などで間違いが多い内容があれば、可能な限り授業内で解説する。

履修条件

他学科の学生は、全履修人数が演習室のPC台数を超えない範囲までとする。基礎的な数学科目(工学解析演習など)を単位習得している方が望ましい。

備考

学内 Web システムを利用し、講義資料を配布する。
Excelを用いた四則演算・Excel関数・セルの参照などExcelの基本操作を理解している方が好ましい。

授業計画

週	単元	内容 (キーワード)	予習/復習
第1週	ガイダンス/データの収集	データ処理法とは/授業内容の説明/授業で使うデータの収集	予) 平均などの統計学の学習内容の整理 (約2時間) 復) 授業内で出てきた用語の整理 (約2時間)
第2週	記述統計学の基礎 (1)	平均、標準偏差などの統計量に関する計算法	予) 平均、標準偏差などの計算法の確認 (約2時間) 復) 授業内容の整理 (約2時間)
第3週	記述統計学の基礎 (2)	共分散、相関係数などの2変量データに関する統計量の計算法	予) 2変量データの統計量の計算法の確認 (約2時間) 復) 授業内容の整理 (約2時間)
第4週	度数分布表、ヒストグラム	度数分布表/ヒストグラム/累積相対度数グラフ	予) 度数分布表やヒストグラムの確認 (約2時間) 復) 授業内容の整理 (約2時間)
第5週	確率と正規分布	確率分布/正規分布/歪度/尖度	予) 確率や正規分布の確認 (約2時間) 復) 授業内容の整理 (約2時間)
第6週	Excelによる統計量の計算 (1)	Excelによる度数分布表やヒストグラムの作成法	予) Excelの四則演算/グラフの作成法など (約2時間) 復) 授業内容の整理 (約2時間)
第7週	Excelによる統計量の計算 (2)	Excelによる平均や標準偏差などの基本統計量の計算法	予) セルの参照法/関数の利用法など (約2時間) 復) 授業内容の整理 (約2時間)
第8週	Excelによる統計量の計算 (3)	Excelによる共分散、相関係数などの2変量データに関する統計量の計算法	予) 関数の利用法/近似曲線の作成法 (約2時間) 復) 授業内容の整理 (約2時間)
第9週	Excelによるグラフの分析	平均の検定(t検定/z検定)/分散の検定(f検定)	予) 検定法について確認 (約2時間) 復) 授業内容の整理 (約2時間)
第10週	データの表現法 (1)	グラフの表現ルール/グラフの種類/棒グラフ/折れ線グラフ/散布図	予) Excelにおけるグラフの作成や編集法 (約2時間) 復) 授業内容の整理 (約2時間)
第11週	データの表現法 (2)	差や比の表現/図形描画	予) Officeソフトを使った図形描画 (約2時間) 復) 授業内容の整理 (約2時間)
第12週	データの取得法 (1)	アンケート調査の概要/調査設計/アンケート票の作成	予) アンケート調査の基礎 (約2時間) 復) 授業内容の整理 (約2時間)
第13週	データの取得法 (2)	アンケート調査実施/アンケートデータの集計(単純集計/クロス集計)	予) Excelのピボットテーブル使用法 (約2時間) 復) 授業内容の整理 (約2時間)
第14週	データの取得法 (3)	アンケート調査データの報告書作成	予) Wordの基本操作 (約2時間) 復) 授業内容の整理 (約2時間)
第15週	総括	第1週～第14週の内容の総括/期末試験の説明	予) 第1週～第14週の内容の復習 (約2時間) 復) 授業内容の整理 (約2時間)
第16週	期末試験		予) 期末試験の対策 (約2時間) 復) 期末試験の復習と関連問題の演習 (約2時間)

微分積分学演習

(選択2単位) 2年前期

丸井洋子*

授業テーマ・内容

前期の「微分積分学」の講義を理解するためには、演習問題を量・質ともにこなすことが不可欠である。特に積分法に関しては、公式を導けることも大切であるが、主要な公式はすぐに使えるように暗記することが望ましい。本演習では毎回1分間で10問の計算をする練習を行う。類題を何度も解く反復練習によって知識の定着をはかる。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

前期の「微分積分学」と同様である。いろいろな関数の導関数の計算(微分計算)の公式・計算方法の習得が大きな目標の1つである。更に、もう1つが、微分計算の逆の計算法である積分計算の公式・計算方法の習得である。これらは、様々な分野に利用される基礎計算法となるので、しっかりと身につけることが要求される。

「微分積分学」で学んだことを定着させるために必要な演習科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	60%
中間試験	—%
小テスト	40%
レポート	—%
演習課題	—%
平常点	—%

テキスト

大学数学 基礎力養成「積分の教科書」
東京電機大学出版局

参考書

微分積分学の教科書
工学解析演習の教科書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

履修条件

後期の「微分積分学」を履修しておくことが望ましい。

備考

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	指数	指数法則・指数計算	予)指数法則・指数計算の確認(2時間) 復)指数計算のしかたを把握(2時間)
第2週	微分法(1)	多項式・分数関数の微分	予)多項式の微分法の確認(2時間) 復)多項式・分数関数の微分法の確認(2時間)
第3週	微分法(2)	合成関数の微分	予)多項式の微分法の確認(2時間) 復)合成関数の微分法の確認(2時間)
第4週	微分法(3)	色々な関数の微分・中間テスト	予)これまでの内容の確認(2時間) 復)中間テストのできなかったところの確認(2時間)
第5週	不定積分・定積分	多項式の不定積分	予)多項式の積分法の確認(2時間) 復)多項式の不定積分・定積分の確認(2時間)
第6週	三角関数	三角関数の微分と積分	予)三角関数の定義とグラフの確認(2時間) 復)三角関数の微分法と積分法の確認(2時間)
第7週	置換積分法(1)	多項式・三角関数の不定積分	予)多項式の積分の確認(2時間) 復)多項式の合成関数の積分法の確認(2時間)
第8週	置換積分法(2)	色々な関数の不定積分	予)三角関数・逆三角関数の積分法の確認(2時間) 復)いろいろな関数の積分法の把握(2時間)
第9週	部分積分法(1)	多項式・三角関数の不定積分	予)積の微分法の確認(2時間) 復)部分積分法の計算法の確認(2時間)
第10週	部分積分法(2)	色々な関数の不定積分	予)積の微分法の確認(2時間) 復)部分積分法の計算法の確認(2時間)
第11週	定積分	色々な関数の定積分	予)これまでの不定積分の計算法の確認(2時間) 復)色々な関数の定積分の計算法の確認(2時間)
第12週	置換積分法(3)	置換積分法による定積分(1)	予)合成関数の微分法の確認(2時間) 復)置換積分法による定積分の計算法の確認(2時間)
第13週	置換積分法(4)	置換積分法による定積分(2)	予)合成関数の微分法の確認(2時間) 復)置換積分法による定積分の計算法の確認(2時間)
第14週	部分積分法(3)	置換積分法による定積分(3)	予)積の微分法の確認(2時間) 復)部分積分法による定積分の計算法の確認(2時間)
第15週	部分積分法(4)・まとめ	部分積分法による定積分	予)これまでの内容の確認(2時間) 復)不定積分・定積分の計算法の確認(2時間)
第16週	期末試験		

応用数学Ⅱ

(選択2単位) 2年前期

岩淵 弘*

授業テーマ・内容

一変数関数の微分方程式の基本的な解法について解説する。微分方程式論は自然科学や社会科学、工学において様々な現象を定量的に解析する為に不可欠な理論である。微分積分学を一通り履修した学生が更に進んで解析的手法を理解し各専攻分野において応用する力を得られるようにする。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

微分方程式の基礎を理解することによって様々な現象に応用する力をつける。一変数関数の微分積分学の標準的な教程と線形代数学の基礎について理解している学生が、変数分離形や線形微分方程式の解の構造を理解し、その解法を習得することを目標とする。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	60%
中間試験	—%
小テスト	20%
レポート	—%
演習課題	20%
平常点	—%

テキスト

やさしく学べる微分方程式
石村 園子著 共立出版

参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

履修条件

備考

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	基礎知識の確認	微分積分学の復習	予) 微分と積分の基本公式を確認する(2時間) 復) 基本公式練習プリント(2時間)
第2週	微分方程式と解	微分方程式の解曲線群	予) 関連用語を理解する p.2-19(2時間) 復) 練習問題を解く p.7-12 練習問題 1-6(2時間)
第3週	変数分離形(1)	変数分離形の微分方程式とその解法	予) 変数分離形とはなにか p.22-29(2時間) 復) 練習問題を解く p.25-29 練習問題 12,13 (2時間)
第4週	変数分離形(2)	微分方程式と初期値問題	予) 初期値問題とはなにか p.30-33 (2時間) 復) 練習問題を解く p.31 練習問題 14 (2時間)
第5週	変数分離形(3)	関数の置き換えによって変数分離形になる場合	予) 関数の置き換えについて p.34-37 (2時間) 復) 練習問題を解く p.35-37 練習問題 15,16 (2時間)
第6週	まとめ	既習内容についてまとめる	予) 総合練習問題を解く p.38-39 (2時間) 復) 既習内容について復習する (2時間)
第7週	線形微分方程式(1)	線形性と1階線形微分方程式	予) 関連用語を理解する p.40-43 (2時間) 復) 定理の証明を理解する p.41-43 定理 2.3 (2時間)
第8週	線形微分方程式(2)	積分因子による解法	予) 積分因子による解法について p.44-49 (2時間) 復) 練習問題を解く p.45-47 練習問題 17,18 (2時間)
第9週	線形微分方程式(3)	線形微分方程式の一般解と特殊解	予) 線形空間の基本事項について p.52-63 (2時間) 復) 練習問題を解く p.63 練習問題 19 (2時間)
第10週	2階線形微分方程式(1)	2階線形微分方程式の基本解	予) 2-3次の行列式の定義について (2時間) 復) 定理の証明を理解する p.59,64 定理 3.6,3.7 (2時間)
第11週	2階線形微分方程式(2)	定数係数同次方程式～判別式が非負の場合	予) 特性方程式の解から基本解を求める p.66-70 (2時間) 復) 練習問題を解く p.75 練習問題 20 (2時間)
第12週	2階線形微分方程式(3)	定数係数同次方程式～判別式が負の場合	予) 複素数解から基本解を求める p.71-77 (2時間) 復) 練習問題を解く p.76-77 練習問題 21,22 (2時間)
第13週	2階線形微分方程式(4)	定数係数非同次方程式の解法～未定係数法	予) 未定係数法による特殊解の求め方 p.78-85 (2時間) 復) 練習問題を解く p.81-85 練習問題 23-25 (2時間)
第14週	2階線形微分方程式(5)	定数係数非同次方程式の解法～定数変化法	予) 定数変化法による特殊解の求め方 p.88-93 (2時間) 復) 練習問題を解く p.91-93 練習問題 27,28 (2時間)
第15週	高階線形微分方程式	3,4階定数係数同次方程式の解法	予) 高階線形微分方程式について p.94-97 (2時間) 復) 練習問題を解く p.95-97 練習問題 29-31 (2時間)
第16週	期末試験		

電気工学概論

(選択2単位) 2年後期

牧 哲朗

授業内容・ねらい

現在、工業のあらゆる分野において、電気電子工学の知識・技術が必要とされている。また、今日の高度情報社会の進歩は留まる所を知らず、拡大発展し続けているが、これは電気電子工学の高度化を基に、あらゆる社会の仕組みがシステム化され、膨大な情報量が必要とされていることを意味する。エンジニアにとって電気電子工学の知識は、もはや分野を問わず必須なものであるといっても過言ではない。本講義では、工業の各分野で必要とされている電気電子工学全般の基礎について学ぶ。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

電気工学の基本となる電磁気学の基礎原理(クーロンの法則、アンペアの右ねじの法則、フレミングの左手・右手の法則等)、電気回路の基礎(キルヒホッフの第1・第2法則、交流回路理論、共振回路等)、電子工学の基本となる電子デバイス(半導体、ダイオード、トランジスタ)と電子回路(増幅回路)の基礎を習得することを目標とする。

機械工学、情報処理工学に関連する幅広い基礎知識を身に付けるために必要な科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	70%
中間試験	—%
小テスト	—%
レポート	—%
演習課題	—%
平常点	30%

テキスト

電気・電子概論
伊理正夫監修 実教出版

参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中に質問・演習を課し、間違いの多いポイントを中心に解説を行う。

履修条件

備考

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	直流回路	電流と電圧	予) 電圧と電流(約2時間) 復) オームの法則(約2時間)
第2週	直流回路の計算	回路計算	予) オームの法則による計算(約2時間) 復) キルヒホッフの法則による計算(約2時間)
第3週	電流の熱作用と電力	電力と電力量	予) 電力の概念(約2時間) 復) ジュール熱(約2時間)
第4週	電流による磁界	クーロンの法則、アンペアの右ねじの法則	予) 磁石の性質(約2時間) 復) アンペアの右ねじの法則(約2時間)
第5週	電磁力と直流電動機	フレミングの左手の法則	予) 電磁力の事前把握(約2時間) 復) 直流電動機(約2時間)
第6週	電磁誘導と直流発電機	フレミングの右手の法則	予) 電磁誘導の事前把握(約2時間) 復) 直流発電機(約2時間)
第7週	交流回路	交流回路の基礎	予) 直流と交流の違い(約2時間) 復) 瞬時値、実効値、位相(約2時間)
第8週	交流回路計算	複素数とベクトル、複素表示	予) オイラーの公式の事前把握(約2時間) 復) フェーザー表示の理解・計算(約2時間)
第9週	共振回路	直列共振・並列共振	予) インピーダンスの事前把握(約2時間) 復) 共振周波数の理解・計算(約2時間)
第10週	交流電力	電力、力率、無効電力、電力量	予) 交流の位相の確認(約2時間) 復) 交流の電力(約2時間)
第11週	電気電子素子(1)	半導体、ダイオード	予) 半導体の確認(約2時間) 復) ダイオードの動作原理(約2時間)
第12週	電気電子素子(2)	トランジスタ	予) pn接合の性質の確認(約2時間) 復) トランジスタの動作原理(約2時間)
第13週	電子回路(1)	オペアンプの基礎	予) 増幅回路(約2時間) 復) オペアンプの動作原理(約2時間)
第14週	電子回路(2)	オペアンプの基本回路	予) 反転増幅回路(約2時間) 復) 非反転増幅回路(約2時間)
第15週	総合復習	電気工学概論の総まとめ	予) 教科書の内容確認(約2時間) 復) ノートの整理(約2時間)
第16週	期末試験		

授業テーマ・内容

最近のコンピュータの普及とその利用技術のめざましい進歩により、情報化の波があらゆる産業へと浸透しつつある。それに伴って、コンピュータサイエンス分野の専門家はもとより、他分野に属しながらもコンピュータやネットワークを利用するワークスタイルは日常的になっている。

本講義では、このような状況を踏まえ、情報処理技術が実際の専門技術にどう結びつくのかを探求しながら、幅広い情報処理技術のハードウェアならびにソフトウェア、数値計算法、オペレーティングシステム、ネットワーク、セキュリティと情報モラル等の基礎知識を修得することを目的としている。

また、職業人に必要となる情報技術に関する基礎的な素養としての「IT 力」を測るための国家試験である「情報処理技術者試験(IT パスポート試験)」取得も目指した質の高い知識を修得する。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

(1)情報工学に関する技術の基本的な概念や仕組みを理解する。(2)基礎的な技術用語を説明できる。(3)さらに情報技術を専門分野に応用できる知識を修得する。

情報技術を工学の諸問題の解決に応用できるようになるために必要な科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	60%
中間試験	—%
小テスト	—%
レポート	—%
演習課題	40%
平常点	—%

テキスト

コンピュータ概論—情報システム入門 第7版
共立出版株式会社

参考書

IT パスポート試験対策テキスト CBT 試験対応
富士通エフ・オー・エム株式会社
情報倫理ハンドブック noa出版

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ピックアップされた ICT 関連ニュースに関する解説、実施した演習問題に関する解説およびディスカッションを行う。

履修条件

演習室のコンピュータ台数の制約により、人数制限有。

備考

e-Learningシステムを活用して授業内容、予復習課題、テキスト補足教材や資料を提示すると共に、レポートの提出や講義演習アンケートも実施する。
☆

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	コンピュータとその利用	身近にある情報システム	予)シラバスで授業概要を把握しておくこと(15分間) 復)テキストのまとめおよび演習問題の実施(2時間)
第2週	ビジネスと情報システム	企業情報システム、インターネットビジネス	予)専門用語の理解(2時間) 復)テキストのまとめおよび演習問題の実施(2時間)
第3週	コンピュータの誕生からネットワーク社会へ	コンピュータの歴史、コンピュータネットワークと社会	予)専門用語の理解(2時間) 復)テキストのまとめおよび演習問題の実施(2時間)
第4週	情報の表現(1)	N進数	予)計算原理の理解(2時間) 復)テキストのまとめおよび演習問題の実施(2時間)
第5週	情報の表現(2)	数値データ・文字データの表現	予)計算原理の理解(2時間) 復)テキストのまとめおよび演習問題の実施(2時間)
第6週	情報の表現(3)	画像データ・音声データの表現	予)専門用語の理解・ICT関連ニュースのピックアップ(2.5時間) 復)テキストのまとめおよび演習問題の実施(2時間)
第7週	ハードウェアの仕組み(1)	パソコンの構成・装置の概要	予)専門用語の理解(2時間) 復)テキストのまとめおよび演習問題の実施(2時間)
第8週	ハードウェアの仕組み(2)	計算のできる仕組み	予)動作原理の理解(2時間) 復)テキストのまとめおよび演習問題の実施(2時間)
第9週	ハードウェアの仕組み(3)	記憶のできる仕組み	予)動作原理の理解・ICT関連ニュースのピックアップ(2.5時間) 復)テキストのまとめおよび演習問題の実施(2時間)
第10週	ソフトウェアの役割(1)	ソフトウェア総論	予)専門用語の理解(2時間) 復)テキストのまとめおよび演習問題の実施(2時間)
第11週	ソフトウェアの役割(2)	プログラミング言語、アルゴリズム	予)動作原理の理解(2時間) 復)テキストのまとめおよび演習問題の実施(2時間)
第12週	ソフトウェアの役割(3)	ファイル、データベース	予)専門用語の理解・ICT関連ニュースのピックアップ(2.5時間) 復)テキストのまとめおよび演習問題の実施(2時間)
第13週	ネットワークと情報システム(1)	ネットワークの基礎、LAN、WAN	予)専門用語の理解(2時間) 復)テキストのまとめおよび演習問題の実施(2時間)
第14週	ネットワークと情報システム(2)	インターネットの仕組み、情報システムの構成と企業ネットワーク	予)専門用語の理解(2時間) 復)テキストのまとめおよび演習問題の実施(2時間)
第15週	情報倫理と情報セキュリティ	情報倫理、リスクとセキュリティ対策	予)専門用語の理解(2時間) 復)テキストのまとめ(2時間)
第16週	期末試験		

ロボティクス通論

(選択2単位) 2年後期

二井見博文

授業テーマ・内容

今日、世界中にてデジタル化が進みロボットの活用が急速に発展している。インダストリー4.0(欧米)をはじめ、ものづくりには情報科学が重要視され、情報の共有(インターオペラビリティ)がカギとなっています。この情報共有化の国際規格として制定されたのが ISO 1584(PLIB)である。PLIB 規格では、論理的分類体系(オントロジー)により、製品/部品を分類し階層化する。また、製品/部品情報のライブラリー化により製品/部品の検索及び選定が容易となる(BtoB,SCM,PDM)。本授業では、論理的分類体系の考え方をロボットに適用し、ロボットの論理的分類体系を構築するためロボット機能モデルに注目する。このロボット機能モデルにてロボットの機能構成を理解し、情報を整理する事によってロボット学を習得して行く。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

ロボットの機能モデルに注目し、授業を行う。機能モデルとは、動作/処理を抽象化するための手段であり、その機械を構成する部品の機能を理解するためである。求められる機械的動作及び処理を理解し、かつ、機能を実現するための部品を選択する能力を養う事ができる。また、これらを組み合わせる事による複雑な機能を実現するロボットや機械を設計する考え方を身に着ける。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	100%
中間試験	—%
小テスト	—%
レポート	—%
演習課題	—%
平常点	—%

テキスト

プリント

参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

履修条件

備考

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	ロボットの構成①	ロボットの歴史と定義	予)ロボットの調査(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第2週	ロボットを構成②	ロボットを構成する機能	予)予習プリント(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第3週	ロボットの構成③	ロボットの機能モデル	予)予習プリント(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第4週	駆動機能①	駆動機能と陸・海・空の移動	予)予習プリント(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第5週	駆動機能②	回転運動機能モデル	予)予習プリント(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第6週	駆動機能③	往復運動機能モデル	予)予習プリント(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第7週	作業機能①	作業機能と産業用アームロボット	予)予習プリント(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第8週	作業機能②	アームロボット	予)予習プリント(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第9週	作業機能③	エンドエフェクタ	予)予習プリント(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第10週	情報の入力と出力①	情報入出力機能とロボット	予)予習プリント(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第11週	情報の入力と出力②	情報入力機能	予)予習プリント(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第12週	情報の入力と出力③	通信機能	予)予習プリント(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第13週	ロボットのデザイン①	ロボットの機能とロボットの部品	予)予習プリント(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第14週	ロボットのデザイン②	教材ロボット	予)予習プリント(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第15週	ロボットのデザイン③	教材ロボット	予)予習プリント(2時間) 復)配布プリント(2時間)
第16週	期末試験		

CAD 応用

(選択2単位) 2年前期

飯田尚紀

授業テーマ・内容

3次元CADの操作を修得すると共に、機械設計について学ぶ。初めに、携帯電話のモデリングを通して、部品作成、組立の基本的な方法について演習を行う。第3週から第8週は、部品作成の基本手順、作成コマンドについて修得する。第9週から第11週にかけて、設計の方法、部品の組立について修得する。第12週から第15週は、これまでに学んだことを応用し、自転車の設計を基本課題として、演習に取り組む。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

優先順位を考えたモデリングの手順を学ぶことを目標とする。図面を見たときに、優先順位の高い形状、寸法は何かを考える習慣身に付ける。
ものづくりに必要なモデルを作成できるようになるために必要な科目である。

成績評価の方法・評価基準

提出課題	60%
レポート	30%
平常点	10%

テキスト

3次元CAD SolidWorks 練習帳
(株)アドライス 日刊工業新聞社

参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題等においては、適宜確認テストを行うので、このテストに合格すること。

履修条件

ものづくり創造工学科の学生のみ受講可能

備考

授業資料等の配布や毎回実施する授業のアンケートには、CoursePowerを用いたe-Learningを展開する予定である。

☆

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	3次元CAD概論	3次元CADの概要について説明する。 情報倫理	予)シラバスを読む、情報倫理(2時間) 復)基本操作を復習する(2時間)
第2週	基本形状の作成1	基本形状A.B.C.	予)図面と作成手順(2時間) 復)基本形状A.B.C.のモデリング(2時間)
第3週	基本形状の作成2	基本形状D.E.F.	予)図面と作成手順(2時間) 復)基本形状D.E.F.のモデリング(2時間)
第4週	基本形状の作成3	基本形状G.H.I.J.	予)図面と作成手順(2時間) 復)基本形状G.H.I.J.のモデリング(2時間)
第5週	折り畳み携帯電話	携帯電話のモデリングを行う	予)基本操作を確認しておく(2時間) 復)モデリング課題実施(2時間)
第6週	機械・機構部品の作成1	機械・機構部品 1.2.	予)図面と作成手順(2時間) 復)機械・機構部品1.2.のモデリング(2時間)
第7週	機械・機構部品の作成2	機械・機構部品 3.4.	予)図面と作成手順(2時間) 復)機械・機構部品3.4.のモデリング(2時間)
第8週	機械・機構部品の作成3	機械・機構部品 5.6.	予)図面と作成手順(2時間) 復)機械・機構部品5.6.のモデリング(2時間)
第9週	トップダウン設計と ボトムアップ設計	設計の考え方	予)アセンブリ(2時間) 復)トップダウン設計(2時間)
第10週	3次元CADを用いた 設計1	ゼネバストップ	予)図面と作成手順(2時間) 復)アセンブリ(2時間)
第11週	3次元CADを用いた 設計2	ゼネバストップ	予)図面と作成手順(2時間) 復)接触セット(2時間)
第12週	応用課題演習1	自転車の設計	予)作成するモデルを準備する(2時間) 復)スケジュールを確認する(2時間)
第13週	応用課題演習2	自転車の設計	予)アセンブリとモデリング操作(2時間) 復)スケジュールを確認する(2時間)
第14週	応用課題演習3	自転車の設計	予)モデリング操作(2時間) 復)スケジュールを確認する(2時間)
第15週	応用課題演習	レポートの作成	予)モデルを完成させておく(2時間) 復)設計の手順(2時間)
第16週	期末試験		

マルチメディア

(選択2単位) 2年前期

飯田尚紀

授業テーマ・内容

コンピュータとインターネットの急速な普及に伴い、私たちは生活のあらゆる場面でマルチメディアに触れている。マルチメディアは、多様な情報の表現形態をコミュニケーションの道具として、一体化して統合的に用いるものであり、人間と人間、人間と機械などの間のインタフェースとして重要な位置付けにある。そのような環境の中で、私たちは、これらの技術を正しく理解し、合理的に操作し、生活に役立てるようにしなければならない。

この授業では、マルチメディアについて基礎的な知識を学習するとともに、現代社会の中でのマルチメディア技術の位置付けを多方面からとらえ、「社会的な側面から見たマルチメディア」について理解を深める。

到達目標・ねらい・卒業認定に関する方針との関連

マルチメディアに関する基礎知識の習得とマルチメディア環境でのそれらの技術の効果的な運用に関する知識の習得を目指す。また、生活を豊かにする道具としてのマルチメディアの効果的な運用とマルチメディア環境と IT 社会における守られるべきこと、考えるべきことが理解できる。

社会における「ものづくり」活動とマルチメディア、ICTとの関連について理解を深めることを大きな目標にする。

さらに法規的な側面から見た社会的な面からもアプローチしていく。

また、CG-ARTS 協会の検定の資格取得も視野に入れた演習なども行う予定である。

プレゼンテーションを行うための基礎技術を身に付けるとともに情報倫理の知識を修得するために必要な科目である。

成績評価の方法・評価基準

期末試験 60%
 中間試験 20%
 小テスト 10%
 レポート 10%
 演習課題 10%
 平常点 20%

テキスト

実践マルチメディア ～ コミュニケーション能力に差をつける
 画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)

参考書

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題等については、適宜確認テストを行うので、これに合格すること。

毎回かなりの量の資料が出るので、資料の熟読が重要になる。

履修条件

ものづくり創造工学科の学生のみ受講可とする

備考

授業資料等の配布には、CoursePower を用いた e-Learning を展開する予定である。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	ガイダンス	授業内容の概説や情報倫理教育	予習 シラバスの熟読(2時間) 復習 配布資料の熟読(2時間)
第2週	マルチメディアの基礎	マルチメディアの定義、感性とメディア(視覚)	予習 マルチメディアの定義等(2時間) 復習 配布資料の熟読(2時間)
第3週	メディアとコミュニケーション	デジタルコミュニケーションについて	予習 コミュニケーションについて(2時間) 復習 配布資料の熟読(2時間)
第4週	メディアの処理技術1	文字・文章・音のデジタル化	予習 コンテンツのデジタル化(2時間) 復習 配布資料の熟読(2時間)
第5週	メディアの処理技術2	画像のデジタル化と図形処理	予習 画像の図形処理等(2時間) 復習 配布資料の熟読(2時間)
第6週	メディアの処理技術3	3次元 CG とアニメーション	予習 アニメーションについて等(2時間) 復習 配布資料の熟読(2時間)
第7週	メディアの処理技術4	ヒューマンインタフェース	予習 ヒューマンインタフェース等(2時間) 復習 配布資料の熟読(2時間)
第8週	中間試験	中間試験を行う。	予習 試験範囲は既習部分(2時間) 復習 試験問題については復習すること(2時間)
第9週	コンピュータとインターネット	マルチメディアとインターネット	予習 インターネット環境について(2時間) 復習 配布資料の熟読(2時間)
第10週	マルチメディアと生活	生活を豊かにする道具と技術	予習 スマートフォンの功罪等(2時間) 復習 配布資料の熟読(2時間)
第11週	マルチメディアとIT 社会	現代社会におけるマルチメディアのインターネット応用～個人情報保護法	予習 個人情報保護法等(2時間) 復習 配布資料の熟読(2時間)
第12週	マルチメディアと「ものづくり」1	マルチメディアと「ものづくり」の関係	予習 配布資料の熟読(2時間) 復習 配布資料の熟読(2時間)
第13週	マルチメディアと「ものづくり」2	マルチメディア環境での「ものづくり」の実例と使われている技術	予習 配布資料の熟読(2時間) 復習 配布資料の熟読(2時間)
第14週	マルチメディアとIT 社会－社会的側面	マルチメディア環境での法整備や社会的側面を実例とともに学ぶ	予習 配布資料の熟読(2時間) 復習 配布資料の熟読(2時間)
第15週	問題演習	問題演習による総復習、問題演習を行い、問題演習による総復習を行う。	予習 配布資料の熟読(2時間) 復習 配布資料の熟読(2時間)
第16週	期末試験		

